

本日は、一般社団法人 東北建設マネジメント技術協会 令和6年度定時総会のご盛会 誠にありがとうございます。

元旦の能登半島を大地震が襲い、「地域の守り手」である建設業の大切さが改めて浮き彫りとなる中で年が開けました。

4月から時間外労働の上限規制が適用され、現場を中心に働き方改革や生産性向上の取り組みが真価を問われる、建設産業にとって転換点を迎える2024。

持続可能な成果・発展に向けて法制度や商慣習の見直し、新たな需要創出などの動きも活発化してきています。自然災害の勃発する日本、国土強靱化を進め、国民の生命財産を守り、地域の活性化で大きな役割を果たす建設産業の重要性は増す一方です。人口減少が進んでも自然災害は減ることがなく、インフラの老朽化は進行します。これから先、10年、20年後といったスパンで担い手の将来想定から逆算して目標を創り、共に取り組んで参りましょう。

最後に、本日までご参集の皆様方のご健勝と貴会の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。



参議院議員

佐藤 のぶあき



東北建設マネジメント技術協会の皆様には、日頃から暖かいご支援をいただいております。深く感謝申し上げます。

本年1月1日には、能登半島付近を震源とする最大震度7の大地震が発生し、大きな被害となりました。被災地の状況を見るにつけても、あらかじめ高規格な幹線道路や耐震性の高い岸壁など強靱なインフラを整備しておく必要性を痛感しています。

我が国の安全安心を守り経済成長を実現するためには、地球温暖化への適応策や、大規模地震や津波への備えなどの事前防災対策と、日本経済の発展を支える交通・物流インフラの整備・充実に向け、全国で必要な社会資本の整備をさらに強化・加速する必要があります。

今後とも、これまでの経験を活かし、「建設産業の再生なくして、日本の再生なし」をキャッチフレーズに、社会資本整備に必要な公共事業予算の確保に、全力で取り組んでまいりますので、皆さまからの暖かいご支援をお願い申し上げます。



参議院議員

足立敏之



「建設ゆめクラブ」  
ご登録はこちら！

